

TOTO 水環境基金

2021年度 助成先団体活動報告

2021年4月～2022年3月
(第14・15・16回)



TOTO水環境基金

TOTOグループは、水まわりを中心とした、豊かで快適な生活文化を創造することで、社会の発展に貢献する企業を目指しています。持続可能な世界の実現のためには、TOTOグループの果たすべき役割である節水技術の追求とともに、地域の事情に精通し、地域を支える団体の活動が欠かせません。そこで、TOTOグループは2005年度に「TOTO水環境基金」を設立し、水にかかわる環境活動に継続して取り組む団体への支援を続けています。企業による一時的な物資や資金の支援だけではなく、団体を支援することで持続的な発展を目指しています。



【SDGs・持続可能な17の開発目標】

2001年に策定されたミレニアム開発目標(MDGs)の後継として、2015年9月の国連サミットで加盟国の全会一致で採択された「持続可能な開発のための2030アジェンダ」に記載された、2030年までに持続可能でよりよい世界を目指す国際目標です。17のゴール・169のターゲットから構成され、地球上の「誰一人取り残さない(leave no one behind)」ことを誓っています。SDGsは発展途上国のみならず、先進国自身が取り組むユニバーサル(普遍的)なものであり、日本としても積極的に取り組んでいます。



各団体の紹介ページ(P6~P25)
におけるSDGsマークについて

上段・団体名の下：その団体が取り組んでいるSDGs開発目標
中段・活動内容下：上記のうち水環境基金の助成活動で取り組んでいるSDGs開発目標

想いを同じくするパートナーを探して

助成先団体の選考にあたっては、TOTOグループ社員から選出された選考員が応募団体の方と面談をし、「水環境にかかる地域課題を地域の方々と共に解決したい」という想いを伝えています。そのうえで、応募団体の活動の詳細やどのような想いを持って活動されているのかを確認し、「地域に根差した活動となりえるか」「一過性の活動ではなく、継続性があるか」という点を中心に選考を行い、想いを同じくする団体と活動をスタートします。

地域に根差した継続的な活動を支援

途上国では、水不足や劣悪な衛生環境により、数多くの人びとが命を落としています。また、環境保全、貧困、教育、ジェンダー平等の実現などの様々な課題を抱えています。このような状況において、特に衛生環境の課題解決には、一時的な水まわり器具などの物資や資金などの提供だけではなく、維持や管理の仕組みを根付かせるために、継続的に現地を支え、衛生的な生活環境の重要性を伝えていく活動が欠かせません。TOTO水環境基金は、このような活動を行う団体を支援することで、持続的な発展を目指しています。

地域の一員として共に課題解決に取り組む

TOTOグループでは、地球環境に貢献するボランティア活動を「グリーンボランティア」と称し、TOTOグループ社員の参加を促しています。TOTO水環境基金助成先団体の活動にもTOTOグループ社員がボランティアとして積極的に参加するとともに、一般市民の方々へも参加を呼びかけています。助成期間が終わっても情報交換やボランティア参加などを通じ、助成先団体をはじめとする地域の皆様との交流は続いているおり、年々活動の輪が広がっています。また、助成先団体のネットワークづくりや活動のステップアップ支援を目的として、「助成先団体交流会」を開催しています。団体の方々と助成活動に関わるTOTOグループ社員が一堂に会して、助成先団体による事例発表、懇親会などの交流を図ります。

こうした活動は、TOTOグループ社員の社会貢献・地域共生に対する意識の醸成と社会貢献活動へ参画する“きっかけ”となっており、このプログラムを通じた地域とのコンタクトの積み重ねが、TOTOグループと地域社会との共生につながっていくと考えています。

みんなの想いを反映して

助成金額は、「お客様」にご購入いただいた節水商品による節水効果、「株主様」の株主優待制度による寄付、「TOTOグループ社員」によるボランティア活動の参加人数を基に算出し、さらにTOTOがマッチングすることで決定しています。ステークホルダーの皆様の環境貢献へのかかわりが増すほど、「TOTO水環境基金」の助成金が増えしていく仕組みです。

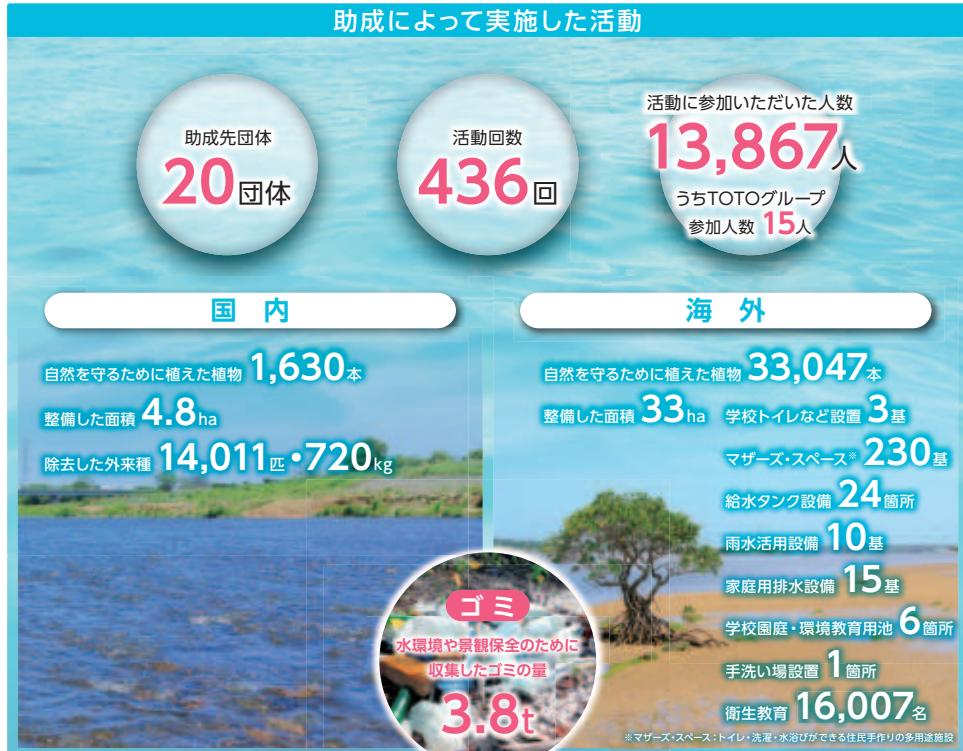
- ① 貧困をなくそう:あらゆる場所で、あらゆる形態の貧困に終止符を打つ
- ② 飢餓をゼロに:飢餓に終止符を打ち、食料の安定確保と栄養状態の改善を達成するとともに、持続可能な農業を推進する
- ③ すべての人に健康と福祉を:あらゆる年齢のすべての人々の健康的な生活を確保し、福祉を推進する
- ④ 質の高い教育をみんなに:すべての人々に包摂的かつ公平で質の高い教育を提供し、生涯学習の機会を促進する
- ⑤ ジェンダー平等を実現しよう:ジェンダーの平等を達成し、すべての女性と児童のエンパワーメントを図る
- ⑥ 安全な水とトイレを世界中に:すべての人に水と衛生へのアクセスと持続可能な管理を確保する
- ⑦ エネルギーをみんなにそしてクリーンに:すべての人々に手ごろで信頼でき、持続可能かつ近代的なエネルギーへのアクセスを確保する
- ⑧ 働きがいも経済成長も:すべての人のための持続的、包摂的かつ持続可能な経済成長、生産的な完全雇用およびディーセント・ワーク(働きがいのある人間らしい仕事を)を推進する
- ⑨ 産業と技術革新の基盤をつくろう:強靭なインフラを整備し、包摂的で持続可能な産業化を推進するとともに、技術革新の拡大を図る
- ⑩ 人や国の不平等をなくそう:国内および国際間の格差を是正する
- ⑪ 住み分けられるまちづくり:都市と人間の居住地を包摂的、安全、強靭かつ持続可能にする
- ⑫ つくる責任 つかう責任:持続可能な消費と生産パターンを確保する
- ⑬ 気候変動に具体的な対策を:気候変動とその影響に立ち向かうため、緊急対策を取る
- ⑭ 海の豊かさを守ろう:海洋と海洋資源を持続可能な開発に向けて保全し、持続可能な形で利用する
- ⑮ 地の豊かさを守ろう:陸上生態系の保護、回復および持続可能な利用の促進、森林の持続可能な管理、砂漠化への対処、土地劣化の阻止および逆転、ならびに生物多様性損失の阻止を図る
- ⑯ 平和と公平をすべての人に:持続可能な開発に向けて平和と包摂的な社会を推進し、すべての人に司法へのアクセスを提供するとともに、あらゆるレベルにおいて効果的で責任ある包摂的な制度を構築する
- ⑰ パートナーシップで目標を達成しよう:持続可能な開発に向けて実施手段を強化し、グローバル・パートナーシップを活性化する

2021年度助成活動の成果

助成金 総額 **2,723万円**

運営経費 **54万円**

助成によって実施した活動



活動による意識変革



2021年度までの累計
(第7回以降)

◎活動回数: **5,181回** ◎参加人数: **193,784人**

第16回(1年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
1	庄内自然博物園構想推進協議会	市民参加型の湿地資源活用による持続的な湿地再生手法の検討	山形県庄内地域	6
2	NPO法人 オオタカ保護基金	サシバの里ハスの花咲く水辺と生きもの復活プロジェクト	栃木県芳賀郡	7
3	NPO法人 おちかわの里	落川交流センター・森と水の再生事業	東京都日野市	8
4	NPO法人 蓦らし・つながる森里川海	湘南いきもの楽校プロジェクト 「子どもが元気、生き物元気、地域が元気」	神奈川県平塚市	9
5	千鳥のお堀を学ぶ会	国宝松江城堀川の水環境保全を通じた「ふるさと教育」	島根県松江市	10
6	NPO法人 環境とくしまネットワーク	せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト	徳島県鳴門市	11
7	NPO法人 ホープフル・タッチ	学校での水へのアクセスと水衛生教育(スーダン)	スードン ハルツーム州	12
8	認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構	学校のトイレを利用しよう! 卫生教育で自分の体を守る!	エチオピア ガム・ゴファ州	13
9	公益財団法人 国際開発救援財団	山岳少数民族の衛生施設「マザーズ・スペース」の設置	ベトナム コントゥム省	14
10	公益財団法人 オイスカ	ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業	インドネシア 中部ジャワ州	15
11	認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン	インパにおける住民参加型の安全な飲料水供給プロジェクト	インド マディヤ・プラデーシュ州	16
12	認定NPO法人 道普請人	ブッシ島4村での安全な水へのアクセスと環境保全・衛生啓発	ウガンダ ワキソ県	17

第15回(2年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
13	NPO法人 白神山地を守る会	陸奥湾の高温障害から環境を守る植林・普及活動	青森県東津軽郡	18
14	NPO法人 しおい環境塾	美しい下手賀沼の景観復活! 2021	千葉県白井市	19
15	一般社団法人 ClearWaterProject	デジタル生き物図鑑制作プロジェクト	愛知県豊田市	20
16	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金	学びと実践のための谷まるごと棚田の自然再生プロジェクト	奈良県奈良市	21

第14回(3年目) 助成先団体一覧

No.	団体名	プロジェクト名	主な活動地域	ページ
17	NPO法人 森のライフスタイル研究所	八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト	東京都八王子市	22
18	NPO法人 新潟水辺の会	鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト	新潟県新潟市	23
19	一般社団法人 海っ子の森	漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減	三重県北牟婁郡、尾鷲市、伊勢市	24
20	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会	地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全	大阪府豐能郡	25

1

庄内自然博物園構想推進協議会

【代表者】 櫻井 修治



庄内自然博物園構想推進協議会は、「都沢湿地や高館山、大山上池・下池を自然学習のフィールドとして、子どもたちをはじめ市民みんなが自然との一体感を享受できるように、自然と触れ合う機会を創出しよう」という願いから、2011年に設立されました。

その理念のもと、市民がいつでも気軽に学習し、豊かな自然環境や生態系が維持され、安全安心な活動ができるよう、「鶴岡市自然学習交流館ほとりあ」を開設し、さまざまな取り組みを行っています。



マコモを粉末にします

これまでの活動は、湿地再生の妨げになっている①自然遷移、②外来生物の増殖の課題解決でした。外来生物の増殖については、駆除後に食材として活用するなど幅広い展開をしてきましたが、特に湿地再生の妨げに対する課題解決事業は、重機攪乱など大がかりなものしかありませんでした。そういった状況下で今回の助成事業では、大型湿性草本のマコモの刈り取りから粉末の活用と多くの市民が参画できる事業へ展開することができました。

市民参加型の湿地資源活用による持続的な湿地再生手法の検討

◆活動地域：山形県庄内地域 ◆助成期間(年)：1



本事業は、多くの目的や世代の方に参画頂くために、これまでの「保全」の視点よりも「活用」の視点を事業の中では強く打ち出しました。結果的に、これまで活動に関心が薄かった層の参加があり、改めて活動の主体は「人」であることを感じました。また、多くの人が参画するためには「正しさの強要」ではなく、「楽しさの共有」の重要性を感じました。

今後は助成事業を実施した際の課題であったマコモ粉末の衛生面を解決し、食材としての活用を進めていくことと、家畜の導入により資源循環事業を開始し、より多角的な事業展開を実施したいと思います。

- 活動回数／29回
- 活動参加人数／1,221人
- ゴミ回収量／20kg
- 植樹／100本(ミズアオイ)
- 整備した面積／1,000m²
- その他の実績／ウシガエル、アメリカザリガニの駆除

▶現地の声

<参加者兼サポーターの方>

◎「ほとりあ」の活動を通して、マコモが神事に使われていることや水質浄化効果、栄養成分が優れていることを知りました。そして、夏にはマコモを粉末にし、お茶やお菓子を作り、秋には背の伸びたマコモでリースづくりを楽しみました。

マコモを刈り取った後の環境は、他の生物にも良い影響を与えるそうなので、これからもマコモの活用を楽しみながら、湿地の環境づくりにも貢献出来たらと思っています。



マコモのコースター

マコモのリースづくりの様子

2

NPO法人 オオタカ保護基金

【代表者】 遠藤 孝一



栃木県北部の那須野ヶ原と東部の喜連川丘陵を中心に活動を行っています。

那須野ヶ原は、那須連山の麓に広がる標高200m~500mの扇状地で、牧草地や水田、アカマツやコナラなどの平地林や防風林、スギなどの屋敷林が混在する農村的環境を有しています。

喜連川丘陵は、高原火山の東南山麓から繋がる丘陵で、大小様々な谷津が形成され、水田などに利用され、里山の二次的自然景観を呈しています。自然豊かな環境で、オオタカをはじめとする猛禽類の調査研究や生息環境の保全活動を通じて、生態系や環境保全型の社会の構築を推進し、社会全体の利益の増進に寄与することを目的として活動しています。



親子で観察会を実施

耕作放棄された谷津田をバスの花咲く水辺に復元し、環境課題(水辺の生物多様性の劣化)と地域課題(地域の活性化)の両方を改善する活動を行っています。地域の方が、この活動に対して予想以上に好意的で興味を持っていただき、1年目としては、良いスタートがされたと思います。2年目のバスを使った加工品の開発にも力が入ります。

モデル的に行っている今回の活動が、同町内から他の場所にも広がっていくように、普及啓発にも努めたいと考えています。

サシバの里バスの花咲く水辺と生きもの復活プロジェクト

◆活動地域：栃木県芳賀郡市貝町 ◆助成期間(年)：1 2 3



当初は1か所を予定していましたが、地域の皆さんのご理解・ご支援によって2か所においてバスを植栽し水辺を復元することができ、地域の方にも興味をもっていただきました。また復元した湿地は、ニホンアカガエルやアズマヒキガエルなどのカエル類、タイコウチやコオイシムなどの水生昆虫類、ホトケドジョウなどの魚類、サシバといった鳥類など、多くの希少な生きものの生息地となり、この場所を利用して、地域の自然観察会も開催されました。畦や水路の補修、除草など、大変な作業もありましたが、予想以上の成果をあげることができました。

- 活動回数／15回
- 活動参加人数／58人
- 植樹／80本(バス)
- 整備した面積／3,000m²

▶現地の声

<地元の方>

◎この田んぼは、水はけが悪くてじめじめしており、トラクターがはまってしまうため稻作を止めました。しかし今回の活動で、バスを栽培する水辺になると言うことを、楽しんでいます。



バスの植栽の準備の様子



手作業による植栽



きれいにバスの花が咲いています

3

NPO法人 おちかわの里

【代表者】澤村 あゆみ



東京都日野市落川・百草の地域は、都心からのアクセスが1時間圏内でありながら、田んぼ・畑・用水路が残る自然豊かな地域ですが、近年は宅地開発が進み、豊かな自然は意識して守っていかなければ消えゆく運命にあります。

2004年、わたしたちの町に落川交流センターという公共の施設が生まれました。この施設を拠点に、地元自治会と複数の市民活動団体が協働で、地域の交流活動促進を目的に、任意団体「落川交流センター運営委員会」として活動してきました。収穫祭やまちつきなど、年数回の地域交流イベントを行っています。

わたしたちは、この町が地域で多世代の交流がますます盛んになるよう、事業を展開していきます。



田んぼの生き物調査

これまで、子どもの遊び場活動と田んぼの体験事業にそれぞれで参加していた方たちが、公園内の環境全体に目を向けて盛り上げていこうという機運が高まりました。

公園内の森や田んぼの環境改善活動を行った結果、これまで花をつければ放置されていた桜や梅が満開になり、くねぎやけやきの実生が芽生え、春になって一年の成果が目に見える形で現れてきています。さらに森が豊かな環境になることに大きな期待を抱いています。また、その活動を子どもたちとともにを行うことで、若い世代に自然や地域に愛着を持って育つ環境ができる事を期待しています。



落川交流センター・森と水の再生事業

◆活動地域：東京都日野市 ◆助成期間(年)：1 2 3



田んぼの生き物調査は10年以上続けていますが、年々豊かな種類の生き物を見つけることができるようになっています。今年はニホンアマガエル、ハグロトンボ、ヤマトタマムシなど貴重種も4種見つけることができ、参加した子どもたちは目を輝かせしていました。

森と水の再生講座では、講師の話に「ナウシカの世界みたい」とつぶやいた中学生や、お父さんと一緒に鍬やスコップで穴掘りしたり炭を撒いたりの作業を楽しんでやっている小学生の姿が見られ、子どもの遊び場で森の環境改善活動をやる意義を感じることができます。また、改善活動を行った林で、春になってこれまで花を咲かせたことのなかった桜が満開になる、という奇跡を見る事ができ、森が変わってきていることを実感しています。

■活動回数／3回

■活動参加人数／150人

■整備した面積／10,000m²

■その他の実績／田んぼの生き物調査にて38種を確認

▶ 現地の声

<参加した方>

◎空気が動くと水が動く、土の中を改善するなんて大きな機械がないと無理と思っていたけど、スコップ1本でもできる改善活動があるなんて、びっくりしました。

◎今まで受けた事のない講座なので、どんなことやるんだろうと思ったけど、世界が広がるね。学びが多いよ。

4

NPO法人 暮らし・つながる森里川海

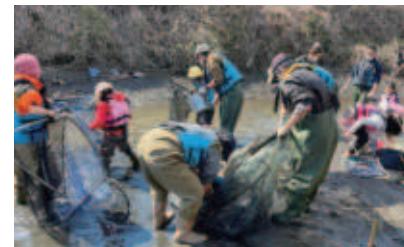
【代表者】臼井 勝之



相模川下流域は都市化の進展により、護岸工事や河川敷のグランピング化、水質の汚濁等が進み、川の自然と触れ合える場所がほとんどありません。

以前は大部分が駐車場で、不法耕作や不法投機が行われていましたが、ワンドやトンボ池など、水辺の自然環境を復元しました。

以来、馬入水辺の楽校の会として16年間活動を継続し、運営体制を強化し、2017年にNPO法人暮らし・つながる森里川海に生まれ変わりました。馬入水辺の楽校の運営を基軸に、生き物と共に生きたまちづくり、子どもたちを野に戻す取り組み、消費者参加型農業による里山環境の保全、市民団体などのネットワークづくりなどに取り組んで行きます。



水辺の清掃

イベント「湘南ピクニック 土手の下のSDGs」には1,000人を超える市民が集まりました。昼は野遊び、SDGs活動のPR、夜はキャンドルナイトを楽しみました。開催にあたってはワークショップ「ミズベリングin馬入水辺の楽校」を開催し、当日は30人を超える会員サポートがあった他、地元小学校や地域のNPOの参加を得られました。

これを契機に、ゆっくり生きようをテーマとしたワークショップ「湘南スロー」の取り組みが始まりました。リピート参加者が増え、とても良い人間関係が醸成されつつあります。市民参加による運営、後継者の発掘、育成の道が開かれ、新年度はパークレンジャー養成講座を開講していく予定です。

湘南いきもの楽校プロジェクト「子どもが元気、生き物元気、地域が元気」

◆活動地域：神奈川県平塚市 ◆助成期間(年)：1 2 3



馬入水辺の楽校、及び当法人の長期運営の仕組みづくり構築が一步前進しました。新型コロナウイルスにより、地域のイベントが中止になったことや、遠方への行楽ができなくなったりなどにより、参加者が急増しています。閉塞的な社会環境によるものと思われますが、自然帰帰志向の高まりがあると感じています。反面、地球温暖化による自然環境の悪化やSDGsについては、自分ごととして捉えている人が少なく、啓発活動が必要だと感じています。こうした中、ワークショップを開催し、「湘南ピクニック 土手の下のSDGs」や「湘南スロー」の取り組みを始めたところ、とても良い人間関係が醸成されつつあり、端緒が開かれたと感じています。地域社会の結びつきが弱体化し、若者の社会参画も減っています。子どもたちの自然離れも進んでいます。心の馴れ所がなくなっている現在、私たちの取り組みの重要性を再認識しています。

■活動回数／80回 ■活動参加人数／2,784人

■その他の実績／

- ①いきものがかり隊による環境整備活動(24回)
- ②自然探偵団の組織化=カマキリ調べの開催(6回)
- ③人材の育成=ワークショップミズベリング、湘南スローの開催
- ④消費者参加型農業みんなの畑の実施(9回)
- ⑤新規運営委員=1人



トンボ池の看板づくり



トンボ池の復元



キャンドルナイトの様子

▶ 現地の声

<参加した方>

◎消費者参加型農業みんなの畑は楽しい。芋掘りと火起こし体験(焼き芋)を体験でき、今日は最高の1日だった。

◎湘南ピクニックに参加したが、新年度も連携を深めたい。

5

千鳥のお堀を学ぶ会

【代表者】中田 光俊



千鳥のお堀を学ぶ会は、ふるさと学習による地域人材育成のため、松江城(千鳥城)近隣の小・中学校5校のPTA会長・保護者等によって、2019年に設立されました。淡水と海水が混じりあう汽水環境である堀川には、多種多様な生物が生息していますが、在来種だけでなく特定外来種も多く見られます。このプロジェクトでは、罠を利用した生き物調査による特定外来種の駆除や、総合学習の授業などを行っています。また、温暖化の影響で繁茂し、景観を損なっている藻狩りなどを行政・企業・地域・学校で連携して実施することにより、多様な生態系を観察できる環境を実現していきます。



松江城址におけるイベント参加者

これまで我々の団体は、子ども達へのふるさと教育に主眼をおいて活動してまいりましたが、活動を知った島根県内の別団体からも次回開催時には連携させてほしいとのお声掛けをいただきました。連携いただける方が増えて用具がそろっているので、安心して参加してもらうことができるようになりました。今後も継続していく活動のため、地域住民や子どもたちにも水の扱い方について学ぶ場を提供したいと思います。



国宝松江城堀川の水環境保全を通した「ふるさと教育」

◆活動地域：島根県松江市 ◆助成期間(年)：1



国宝松江城を囲む堀川で、近隣小中学生や地域住民と生きもの調査や藻刈り活動を実施し、楽しみながら生態系の把握や水環境保全の意識を高める活動を行いました。過去2年間は任意団体として主催したイベントでしたが、3年目の昨年度は、島根県主催のイベントとして活動は拡大となったものの、コロナ対策を考慮し募集人数を制限したため、参加者は合計70名 運営スタッフはTOTO社員含め30名で開催しました。活動後は、中国地方のPTA向け実践発表会や島根県主催の地域イベントで活動報告の機会をいただけたため次年度の参加者募集も兼ねた広報活動を行いました。

- 活動回数／5回
- 活動参加人数／100人
- ゴミ回収量／2,000kg
- その他の実績／外来種ミシシッピアカミミガメの駆除

▶現地の声

<参加した保護者>

- ◎子どもが好きなので、また機会があれば参加したいです。暑い中お疲れ様でした。
- ◎親子で楽しい時間を過ごすことができました。生き物観察も楽しいですが、それ以上に環境に対する意識を高めることができました。
- ◎スタッフが多く安心でした。生き物への興味関心が更に深まりました。
- ◎学校の授業でもとりいれてもらいたい。



堀の清掃作業

6

NPO法人 環境とくしまネットワーク

【代表者】島田 公



環境とくしまネットワークは、既存の「環境+建築」ネットワークと、とくしま地球温暖化対策協議会と共に、地球環境に関する人間と自然の豊かさの創造という現代的視点から、これからの循環型社会の形成や地域の活性化の様々な環境活動手法の実現の必要性と実態把握を通して明確にすることで、環境社会的貢献を担う立場として2008年3月にNPO法人環境とくしまネットワークとして認証登録されました。

今後一人でも多くの仲間と一つでも多くの環境NPOの方々と、ここ徳島での地球に優しい環境活動を中心に展開していくことを志しています。



海洋プラスチックゴミ清掃の参加者

蔓延するコロナ禍の影響も大きかった反面、地元地域の様々な分野の方々と活動を通じて、知り合う結果が感じられた2021年の活動と思いまます。そして、その地域・地元の関係者の方々と今後の環境活動全般に向けての協力体制のグローバル化と情報共有等の連絡網も構築することができました。これは今後の連携活動に向けて大きなスタートではないかと感じています。

現地海岸を含め周辺海岸の現状調査でも、既に多くの海洋ゴミが見受けられており、定期的な活動の展開を視野に入れ、今回の活動で繋がった地域協力組織団体と連携し、継続活動を実施計画中です。



せとうち・鳴門「ゴミ箱になった海」再生化プロジェクト

◆活動地域：徳島県鳴門市(瀬戸内海・鳴門海岸及びウチノ海面) ◆助成期間(年)：1 2 3



2021年度の活動は、大きく一般参加型募集を2回(9/19:海岸清掃活動と2/27:シンポジウム)と、瀬戸内海鳴門海岸11箇所を延べ13回にわたり現状調査を企画し、活動を推進しました。第一ステージとして、対象海岸における漂着ゴミとその影響による自然生態系の現状調査を先行させ現地をより詳細に把握、その後、瀬戸内海鳴門海岸・亀浦漁港海岸本浦地区の海洋プラスチックの大作戦/市民参加型海岸清掃活動を実施しました。第二ステージでは、「私たちが今取り組むべきこと」として考え、「廃プラスチック」「サマリリカバリー」「プラスチックの3R」を考えながら、プラスチックと賢く付き合い、「海環境会話」の展開を講師コーディネータによる進行スタイルのシンポジウムとSDGs目標14「海の豊かさを守ろう」から瀬戸内海の現状報告会と今後に繋がる海洋プラスチックに関する環境シンポジウムを開催しました。

- 活動回数／15回 ■活動参加人数／144人 ■ゴミ回収量／710kg
- その他の実績／2021年度環境省主催第4回環境カウンセラーエコ保全活動表彰『循環型社会貢献・市民部門賞』の受賞

▶現地の声

<参加した方>

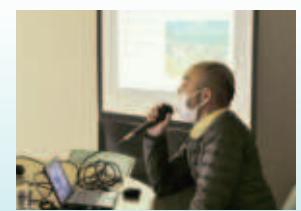
- ◎海の中も海岸も、ゴミにあふれていることを理解はしていましたが、形をとどめているゴミだけでなくバラバラに切れたり粉々になって拾うことも難しくなってきました発泡スチロールを確認しました。(これがまさにそのまま海の生き物の口に入ってしまう、と想像すると本当にどかしかったです)そして、なぜこんな物がここに!?と思うようなもので溢れており海の中の現状と、人間のしていることを思い知りました。



参加者による清掃活動



集められた海洋ゴミ



環境シンポジウム

NPO法人 ホープフル・タッチ

【代表者】高田みほ



ホープフル・タッチは、国際社会から忘れられた弱い立場にある子ども達に手を差し伸べ、コミュニティの発達を通じ、子どもの発達と平和を促進し権利保護のため活動する団体です。

①災害や貧困など複合的な社会的困難により剥奪された子どもの権利を保護する。②社会的困難により派生した長期的課題へ取り組み、子どもが発達する力の促進を目指す。③子どもひとりひとりの声を尊重し、子ども自身の主体的参加を促す。④子どもに対する社会的無視を根絶する。⑤社会的困難の影響が日常となった子どもの現状を映像化し、実情を世界へ発信し理解を深める。この5つのミッションを掲げ活動を行っています。



水衛生トレーニング

本事業では水衛生に関する基本的な知識や、身の回りの環境での実践方法について生徒や教師の方々に共有するとともに、各校で独自の活動も実施されるようになりました。特に校内の清掃活動は教師の声掛けにより生徒が行うようになり、これまでなかったゴミ箱が設置されたり、手洗い場にゴミがなくなる様子が観察されました。屋外で貯水された水を手洗いやトイレ用に使用することは一般的ですが、飲料については不衛生な水を飲まないよう生徒同士で注意している様子もみられました。

当団体では対象地におけるライフスキル教育の向上に向け現地教育省との合意の上、活動を実施していますが、本事業で取り上げた水衛生管理も報告、指導法を共有しました。



学校での水へのアクセスと水衛生教育

◆活動地域：スーダン共和国 ハルツーム州 ◆助成期間(年)：1



貧困や劣悪な水衛生環境下にあるスーダン農村地の小学校6校で、子どもの健康を促進することを目的に、小学校における水へのアクセス確保と水衛生教育の普及活動を実施しました。これまで水が通っていた学校1校には、地域の地下水源からの水を引き、貯水タンクや手洗い場を設置し、生徒453人や教師14人が恒常的な水へのアクセスを得ることができました。

水衛生教育の普及活動としては、手洗い習慣や水衛生管理が実施されていない課題の改善に向け、小学校6校の生徒2,731人に対しトレーニングを実施しました。子ども達が少しでも水衛生に関心もち、楽しく手洗いができるよう、教師の方々と一緒に手洗い指導用ショートムービーや視覚的教材を作成しました。

- 活動回数／10回 ■活動参加人数／2,817人
- 設備設置／水道管、貯水タンク、手洗い場を1箇所
- その他の実績／手洗い指導用のショートムービー制作、水衛生教材の制作

► 現地の声

<地元の小学生>

- ◎学校で水を飲めるようになったことが嬉しいです。
- ◎きれいな水で手を洗ったり、暑い時に顔を洗ったりできるようになって、自分をきれいにできるようになりました。
- ◎長い髪がなくなるためには、(自分がやっていたよりも)長い時間手を洗わなきゃならないと知って、面倒だけど大切なんだと思いました。
- <地元の教師>
- ◎子ども達や私達おとなも、衛生管理について考える機会になりました。生徒達は、学校や身体を清潔に保つことを意識して生活するようになったと思います。



教材による水衛生の学習



設置されたタンク



手洗い場を使う生徒たち

認定NPO法人 ホープ・インターナショナル開発機構

【代表者】ベア・ジェフリー



特定非営利活動法人ホープ・インターナショナル開発機構は、2001年に設立されホープ・ネットワークの一員として世界の極貧層の人々への自立支援を行っており、「支援の届いていない人々の自立への道筋を支援する」を理念に、持続可能な開発プロジェクトを進めてきました。

安全な水の確保は健康、農業、教育の向上につながり、貧困からの脱却に想像以上の力を發揮します。全ては安全な水の確保から始まると考え、水供給を始め、教育支援、コミュニティ開発等、現地の文化・伝統と共に存できる技術や手法を提供し、主にアジアやアフリカで自立につながる包括的な支援を実施しています。



教室内で衛生教育

子どもたちに安全に学校トイレを利用できる環境を整備することは、教育や健康に関わる根幹の課題です。学校トイレの設置が重要な課題であるにもかかわらず、財政的な面からすぐに設置できるというような横の広がりは期待できません。しかし、カレ・マロ小学校の子どもたちは学校にトイレがあることで、野外排泄が根絶され、教育にも専念できることになり、衛生知識を身に付けることによって下痢性疾患のリスクも大幅に減らすことができました。また家庭での簡易トイレも設置促進しており、トイレの利用が習慣化されることで、地域全体の衛生環境が改善されていくことが見込まれます。長期的且つ継続で見ることで、本プロジェクトがコミュニティーに大きく貢献しています。



学校のトイレを利用しよう！衛生教育で自分の体を守る！

◆活動地域：エチオピア ガム・ゴファ州 ◆助成期間(年)：1



エチオピアの南部諸民族州(標高2,000m)に位置する国内外から支援がないカレ・マロ小学校の全児童269名は「くさい汚い危ない！」学校トイレを利用するこ踏躇い、野外排泄がなされていました。本活動により、男児用(8個室)トイレと女児用(8個室)トイレが設置され、トイレの利用が開始されました。それと同時に児童で構成される「WaSHクラブ」が創設され、生徒同士でトイレの利用の促進、トイレ後の手洗いなど衛生活動が行われました。週一回の朝礼で衛生活動の確認が呼びかけられ、児童たちは衛生意識が高まりました。また、設置された学校のトイレを清潔に管理維持するため、WaSHクラブを中心に当番を決めて清掃が行われています。

- 活動回数／10回 ■活動参加人数／269人
- 設備設置／学校トイレ
- その他の実績／石けんと啓発用ポスターの寄贈

► 現地の声

<地元の中学生>

- ◎元々学校にあったトイレは、トイレのドアがなく、床は丸太が敷き詰められていたため、安心して使えませんでした。またトイレ後に手を洗う場所や水もありませんでした。新しく支援していただいたトイレは、丈夫なドアがあり、床はセメントでできており、しゃがんでも安全です。そして、8個室もあるため、一度にたくさんの児童が使えることが一番いいところだと思います。手を洗う場所も提供してもらい、このトイレをきれいに維持することや、自分たちが何かを変えていけるんだという意識を持つことの大切さも学べました。
- ◎トイレ利用後に手を洗うことができ、清潔にすることを心がけるようになりました。支援いただいたことをとても感謝しています。



手洗いの様子



トイレース内



生徒たちによるトイレ清掃

公益財団法人 国際開発救援財団

【代表者】飯島 延浩



公益財団法人国際開発救援財団には「開発途上国の子どもたちが健やかに育つことができる社会をつくります」「日本国内の様々な企業、団体、そして多くの個人の皆様と一緒に、国際協力を推進します」の2つのミッションがあります。これらを実現するために、「国際協力援助」「緊急援助」「広報啓発」といった3つの事業を中心活動を行っています。子どもに対する医療や教育の問題、地域の産業の発展、住民の支え合いの仕組みづくり、災害からの生活の回復など、その地域できわめて重要な課題を把握し、それぞれの分野での経験豊かな専門家や研究者を、指導者あるいはアドバイザーに迎えて、現地の人々の知識・技術が確実に向上するような取組みを行っています。



活動参加家族に対するオリエンテーション

ベトナム コントゥム省では、家庭および地域内の衛生環境が課題となっています。洗濯や身体を洗うには、自宅から離れた川や井戸まで行かなければならず、頻繁に行なうことはできません。また、およそ8割の世帯は自宅にトイレを持たず、用便是付近の茂みや、集落の共有トイレで済ませています。このため、感染症に罹る危険性は高く、特に乳幼児は下痢や発熱から栄養摂取の阻害も引き起こされ、高い死亡率の要因の一つとなっています。当活動は、トイレ、洗濯、水浴びができる住民手作りの多用途施設「マザーズ・スペース」を設置し、家庭及び地域の衛生状況の改善を図る取組みです。



山岳少数民族の衛生施設「マザーズ・スペース」の設置

◆活動地域：ベトナム コントゥム省内4郡（ダックトー郡、ダックグレイ郡、シャータイ郡、コンライ郡） ◆助成期間(年)：1



コロナウイルス感染拡大を受けて、対象地の一部変更や当初予定していた活動実施時期が延期になったものの、無事にベトナムコントゥム省内4郡で当初の予定を超える230世帯のマザーズ・スペースの建設を進めることができました。また、マザーズ・スペースの設置にあたり、2012年～2018年に実施した先行事業でマザーズ・スペースを設置した世帯が、導入を検討する世帯に向けて自身のマザーズ・スペースを紹介するなど、指導的な役割を果たしました。来年度以降は、今年度マザーズ・スペースを設置した世帯が普及の担い手となり、新たな対象地域での設置を予定しています。今年度は普及に向けて、大きな一歩となりました。

■活動参加世帯／300世帯

■設備設置／マザーズ・スペース230基

■その他の実績／

JICA研修の一環として、アフリカの英語圏8か国の政府行政官を対象に、「栄養に配慮した農業および生活改善」について講義を行い、

マザーズ・スペースモデルについてもご紹介しました。

► 現地の声

<地元の方>

○今まで、川に行ったり、村の共同水場で慌ただしく水浴びをしていたので、マザーズ・スペースで子どもと一緒に水浴びができる事が嬉しいです。

○今まで、近所のトイレをお借りしていて気がねしていましたが、これからはこんなに綺麗なトイレで安心できます。

○お腹が大きくて以前はトイレを使うのは本当に難しかったです。今は明るくて、臭いもなく、清潔で安心です。



公益財団法人 オイスカ

【代表者】諸江 葉月



オイスカ・インターナショナルは、「すべての人々がさまざまな違いを乗り越えて共存し、地球上のあらゆる生命の基盤を守り育てようとする世界」を目指して1961年に設立されました。本部を日本に置き、現在36の国と地域に組織を持つ国際NGOです。1969年にオイスカ・インターナショナルの基本理念を具体的な活動によって推進する機関として生まれ、主にアジア・太平洋地域で農村開発や環境保全活動を展開しています。特に、人材育成に力を入れ、各国の青年が地域のリーダーとなるよう研修を行っています。国内では、農林業体験やセミナー開催などを通じた啓発活動や、植林および森林整備による環境保全活動を展開しています。



スタディーツアーの風景

ドゥマック県沿岸部の海岸浸食は深刻であり、浸水被害を受ける校舎やトイレなどの支援については、学校や地域にとって積年の願いでした。こうした水環境施設の整備工事には、保護者をはじめ多くの地域住民が労働奉仕に積極的に参加してくれ、その姿から子どもたちの教育に対する地域の強い思いを感じました。また、これまで教員など環境教育の指導者となる層へのワークショップや勉強会は行ってきましたが、新たに他地域へのスタディツアーを組むことができました。

学校同士の横のつながりも強くなっていますことで、今後情報連携が進み、地域全体での主体的な活動が活発になることが期待されます。



ジャワ島の学校を対象とした水環境の改善と環境教育事業

◆活動地域：インドネシア共和国 中部ジャワ州 ドゥマック県内小学校 ◆助成期間(年)：1



2021年度もコロナ禍の影響は大きく、様々な制約を受けることになりました。前年度より延期していたエコキャンプについては、中止せざるをえませんでしたが、その他の活動については調整を行うことで、予定していた活動を実施しました。エコキャンプの代替活動についても、ドゥマック県内61小学校において池を併設した学校庭園の整備を行うことができ、水環境保全や生物多様性学習の場を創出することができました。

また、海岸浸食により長年浸水被害に悩まされていたティンプロスコ第一小学校では、校舎床や校庭の嵩上げを行うことで、子どもたちが安心して学ぶ環境を整えることができ、さらに絶対数が不足していたトイレを新設し、これまで一つもなかった手洗い場を新たに設置することで、衛生面の改善に貢献することができました。

さらにマンゴープランチングについては、ティンプロスコ村の2小学校の子どもたちとともにポットでの育苗を進め、3,000本の植栽を行いました。

■活動回数／42回 ■活動参加人数／1,052人 ■植樹／3,047本（マンゴープランチング等）

■設備設置／校舎床・校庭の嵩上げ、トイレ・手洗い場の設置 1基、学校庭園・環境教育用池 6箇所

■その他の実績／環境教育教材400冊の配布



生徒たちによる学校庭園の整備



完成後のトイレ



教室の床面嵩上げ工事

► 現地の声

<地元の校長先生>

○子どもたちが学校内外での植林活動を通じて、環境を守り続けようという気持ちが芽生えました。また以前は、高潮によって浸水するといった深刻な問題に直面していましたが、校舎や校庭の嵩上げ工事が実施できたことで、子どもたちが安心して学校に通えるようになりました。

<地元の小学生>

○私たちの学校は高潮の影響で教室まで水が入ってしまうことがあります。本当に困っていましたが、安心して学校に通えるようになりました。また、校庭に水や生き物について学べる学校庭園もできて、嬉しいです。これからも管理を頑張ります。

11

認定NPO法人 ウォーターエイドジャパン

【代表者】 小寺 清



ウォーターエイドは、1981年に設立され、40年間にわたって水・衛生分野に特化して活動してきた国際NGOで、2013年に日本法人としてウォーターエイドジャパンを設立しました。2021年現在、アジア、アフリカ、中南米など計26か国で水・衛生プロジェクトを実施中です。水・衛生分野の専門性を活かし、各国の貧困層や取り残された人々が清潔な水とトイレを利用し、手洗い等の衛生習慣を実践することができるよう、現地に最も適した解決策を実行しています。



水を運ぶ現地の女性たち

インドのマディヤ・プラデーシュ州ダモー県では、慢性的な干ばつと地下水の過剰利用による地下水枯渇、また既存の水道・井戸の故障や水質汚染によって、人々が安全な水を安定して利用できずにいます。本来、各村の村水衛生委員会が、水問題を解決する計画を立て、それに政府が予算を出して、解決策を実行していくべきところですが、村水衛生委員会をはじめ、その機能が動いておらず問題は解決されないままとなっています。本プロジェクトでは、村水衛生委員会と住民が地域の水問題を理解し、参加型で計画を立て、給水設備が導入された後には、村水衛生委員会と住民が協力して設備を維持管理していく、という仕組みを構築することに注力しました。



インドにおける住民参加型の安全な飲料水供給プロジェクト



◆活動地域：インド共和国 マディヤ・プラデーシュ州 ダモー県 ◆助成期間(年)：1



ダモー県の15村を対象に、村水衛生委員会を結成または再結成し、研修を実施しました。また、村水衛生委員会だけではなくボランティアグループ、住民を対象に、水質検査や地下水涵養、給水設備の維持管理・修理に関する研修・啓発を実施したうえで、村水衛生委員会と住民が中心となって、給水設備の整備計画を策定しました。策定した15村の計画のうち10村は政府に承認され、5村は政府の予算でパイプ給水システムが導入されました。残る5村は2022年度に同システムが導入され、もう5村の計画も2022年度承認される予定です。

- 活動参加人数／559人
- 設備設置／雨水活用設備 10基、家庭排水用浸透ます 15基
- その他の実績／
ボランティアの給水システム維持・管理の知識と技術の習得、
水質検査技術の習得による水質モニタリングの実施など

▶ 現地の声

<地元のスタッフ>

◎農村部では、水・衛生インフラが整備されていなかったこともあって、手洗いができず、新型コロナウイルスの感染者数急増に対応することが困難な状況にありました。地域の人々が自分たちで、地域の水問題を解決していく基盤をつくることができました。これは設備を作ることよりも、持続的かつ波及効果があるものです。本プロジェクトのご協力に感謝します。



12

認定NPO法人 道普請人

【代表者】 木村 亮



「住民自身が実施できるシンプルな工学技術で、開発途上国の人々を幸せにしたい」というコンセプトが原点となり、当団体の理事長である京都大学の木村亮教授により「土のう」による道直し技術が開発されました。この技術を人々の手に届ける移転活動は「自分たちの問題は自分たちで解決する」という意識の芽生えにつながります。この意識を世界に広めるため、2007年に当団体が設立されました。住民が自ら汗を流して、普段利用する自分たちの農村インフラ（農道、橋、給水設備など）の改善を行うことによって、人々の生活環境改善に向けたやる気と自信を引き出します。農村の自発的な開発に向けたきっかけづくりをし、世界の貧困削減に寄与することを目的としています。



現地の方々とスタッフ

本事業は住民、小学生の老若男女を満遍なく巻き込んで島をあげての活動となりました。何より汚れた湖水を利用することによる悪影響や森林伐採について考えたこともなかった住民の意識改革ができたことは大きいと感じています。ただ、公共設備や政府の資金の届かない島のニーズ（追加給水設備、公衆トイレ、電気等）は挙げるとキリがなく、今後も独自にモニタリングを続け、何かしらの形でブッシ島に資する活動を続けたいと強く思います。

ブッシ島4村での安全な水へのアクセスと環境保全・衛生啓発



◆活動地域：ウガンダ共和国 ウィンソン県 ブッシ島内 グルウェ村、チヌワンテ村、チャンジャジ村、ジャリ村 ◆助成期間(年)：1



ビクトリア湖に浮かぶブッシ島は公共水道が整備されず、未だ未電化で、政府の支援を享受できない孤島です。本事業では、4村21箇所及び3小学校3箇所に雨水タンクを設置し、安全な水へのアクセス向上を目指しました。水利用者委員会を設立し、タンクや蛇口が長年維持管理・適切に利用されるようなシステムを構築しました。また、3小学校に3育苗場を整備し、大人も子供も協働して植林することで、環境保全への機運を高めました。ワークショップを通して、衛生や公共心の啓発を行い、島全体の環境が住み良くなるよう住民主体での生活基盤の向上を行いました。

- 活動回数／9回
- 活動参加人数／714人
- 植樹／30,000本（ココア、グラベリア・コーディア等）
- 整備した面積／30ha
- 設備設置／給水タンク 21基（各1,000リットル）、3基（各10,000リットル）

▶ 現地の声

<活動に参加した小学生>

◎育苗の活動を通して、自分が住んでいる島の環境問題について考える良い機会となりました。また、このような活動の支援をしてくれる、日本という国についてとても興味を抱きました。



13

NPO法人 白神山地を守る会

【代表者】 永井 雄人



当会は、白神山地のブナの森の復元・再生活動を実施する団体として、1993年白神山地が世界遺産登録した年に発足しました。白神山地では、世界遺産登録の前にブナの伐採があり、現在もかなりの箇所で木々が失われた状態となっています。白神山地の自然遺産を次世代に残していく為に、ブナなどの広葉樹の苗木づくりを行い、植林活動に取り組んでいます。また、自然保全の活動を理解してもらう為のガイドや環境教育活動を実施しています。



植樹祭における植林作業

私たちが取り組んでいる陸奥湾をきれいな海と環境保全の活動は、青森を代表する八甲田山水系を守ることとして青森県民がとても大事にしています。特に青森市内の高校生・大学生が積極的に参加してくれている事で、事業の継続があり、持続可能な環境づくりが進んでいるように思います。併せて、青森市内の企業で構成されている団体が、積極的に参加ってきており、市民や学生と企業の参加も増えてきました。また、平内町民の参加も出てきており、そのネットワークの広がりを感じます。陸奥湾のホタテを高温から守っていこうという意識を持つ事は、次世代の持続可能な環境、経済にもつながる事であり、若い世代の高い環境意識を促していきたいです。



陸奥湾の高温障害から環境を守る植林・普及活動

◆活動地域：青森県東津軽郡平内町 ◆助成期間(年)：1 2 3



コロナ禍の合間に縫って実施した第11回目の海と山をつなぐ植樹祭は、230名の参加があり、盛大に開催されました。特に青森市の広報掲載がない中での参加数に驚いています。また、この年から植林場所が新しい社会貢献の森に移動しての植樹祭でしたので、植林地の地拵えや、植林地までの道路を整備したりました。この森と海と川をつなぐ植樹祭は、2021年11月に長崎県諫早市の鎮西学院大学で開催された、森里川海プロジェクト全国大会でも事例発表となり、とても有意義な活動ができました。

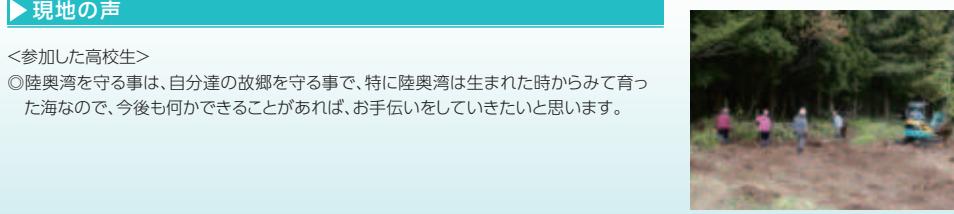
また、春に植えたブナの種が秋に発芽して、苗木となり根切れ作業を行い秋に仮植作業を行なう事ができました。今回はミズナラの種が落ちたので、種拾いを行い、秋蒔きをすることができました。

- 活動回数／56回
- 活動参加人数／360人
- ゴミ回収量／200kg
- 植樹／250本(ブナ・ミズナラ・イタヤカエデ)
- 整備した面積／1,000m²

▶ 現地の声

<参加した高校生>

◎陸奥湾を守る事は、自分達の故郷を守る事で、特に陸奥湾は生まれた時からみて育った海なので、今後も何かできることがあれば、お手伝いをしていきたいと思います。



春の苗床作業

14

NPO法人 しろい環境塾

【代表者】 渡邊 康夫



白井市平塚地区は下手賀沼を挟み柏市、印西市などに隣接した里山です。米、野菜、梨を中心に農業を営み北総谷津田の景観が維持されています。しかし都市化や農業者の高齢化により耕作放棄地や樹木竹林の荒廃が進み、手賀沼はかつて全国で最も汚れた沼と言われました。都市化の波の中、この流域を整備し、貴重な里山で保全活動を行い、「安らぎのあるまちづくり」をテーマに ①荒廃した樹林・竹林の整備 ②耕作放棄地の再生活動 ③谷津田と生きもの復活 ④地元と千葉ニュータウン市民と協働の保全活動 ⑤景観植物の栽培拡大 ⑥特定外来植物の除去などにより、谷津田の自然環境の保全を行います。



特定外来種生物除去に参加された方々

下手賀沼土手のゴミ回収や草刈りによって、歩行不能の土手が散策が可能になり、谷津田での生きもの観察会や湖沼の水質調査などの活動の写真展示により地元農業者やニュータウン住民の関心が高まりました。結果、本団体会員の増加、地元農家から新たに耕作放棄地の管理依頼、白井市から市民の森新規整備依頼が入りました。また地元農家や地域団体との連携による草刈り・ゴミ拾いの一斉整備活動を行い、そうした広がりによって、地元地域と一緒に環境保全活動が進められるようになりました。行政との連携も円滑になってきており、市民参加のイベント開催と運営に加え、地元地域との環境整備や交流活動にもより力を注ぎ、地域の要望に応えていきたいと考えます。



美しい下手賀沼の景観復活! 2021

◆活動地域：千葉県白井市平塚地区下手賀沼周辺 ◆助成期間(年)：1 2 3



1. 下手賀沼流域で耕作放棄された田畠を整備し、復活した耕作地で植栽を行い景観を回復する。
2. 下手賀沼流域周辺で管理する水田に侵入する特定外来生物を除去することで生物多様性を維持・促進し、地域で米作りを行う農家への支援を行う。
3. 下手賀沼の土手の草刈りや放置されるゴミ等の回収、下手賀沼観察会で市民が下手賀沼を身近に感じ、子どもたちが生きものにふれあう水辺の復活を啓発する。

■活動回数／21回

- 活動参加人数／342人
- ゴミ回収量／440kg
- 整備した面積／14,000m²
- その他の実績／特定外来生物ナガエツルノゲイトウの駆除

▶ 現地の声

<参加した保護者の方>

- ◎思いのほかドジョウやエビが生育していることに驚いた。30年ぐらい前はこんなにエビはいなかった気がする。豊かな生きものの生態系が戻ってきているのを感じた。
- ◎手賀沼が白井にあることを初めて知った。船からの眺めは非常にきれいだった。こうした景観をこれからも残していきたい。そのためにも家庭から油などの排水は直接流さないよう注意していきたい。

<参加した小学生>

- ◎ワラからしめ縄が作れて楽しかった。お米って無駄がないなって思った。



谷津田の耕作放棄地における草刈り作業



金山落における測定外来生物の除去作業



下手賀沼南土手の笹竹をチッパーで粉碎

15

一般社団法人 ClearWaterProject

【代表者】瀬川 貴之



「子どもたちが目を輝かせて飛び込んでいくような、川、海、湖を未来の世代に」をビジョンに、「豊かな水辺環境と水辺文化を創出する」ことをミッションとして各種事業を運営・提供しています。代表はITエンジニア・コンサルタントの経験から水辺×ITを最初の基軸としました。水辺環境をよくするには、関係する水質、生物環境、治水、ごみ問題、水辺空間と要素に関わり諸問題を一つ一つ変えていく必要があり、また環境とは人と関わるリアルな問題であるため、ITとリアルな現場の環境コーディネーターを両輪に様々な解決策を手掛けています。



捕獲した生物の画像撮影

デジタル図鑑を作成する過程で自分たちでも生き物の種類がわからないことがありました。通常の環境学習では専門家からの魚種や生態の解説が必要ですが、デジタル図鑑を用いることで理解の導入とすることの可能性を改めて感じました。

当初想定していたとおり、DX時代の環境学習ツールとして広く小学校などに広めていきたいと思います。そのためにもできるだけ精度をあげられるよう努力したいです。



デジタル生き物図鑑制作プロジェクト

◆活動地域：愛知県豊田市扶桑町 岩本川 ◆助成期間(年)：1 2 3



コロナウイルスの影響や社内環境の変化を受け、プロジェクトの変更とイベントなどを縮小して実施しました。イベント参加メンバーを関係者に限定するなど、やれることを模索、工夫しながら事業を進めました。デジタル図鑑作成に関しては、魚類以外の生き物の判定はAIモデルを作成するための学習素材を集めることが難しく(時期や生息数の少なさ)現時点では諦めることとなりましたが、魚類に関しては撮影角度などを考慮して撮影をすれば70%～90%の範囲で判定ができるようになり、2022年度の活動で利用することが非常に楽しめます。

- 活動回数／8回
- 活動参加人数／25人
- ゴミ回収量／10kg

▶ 現地の声

<助成団体スタッフ>

◎学習データとして利用する写真は様々な角度や実際の利用シーンを想定して撮影することがAIに関して重要だと分かりました。

◎岩本川のごみ拾いに関しては昨年度のことも加味され地域住民の目が川に向けており、大きなゴミなど目立つものはありませんでした。



検体を採取する様子



捕獲した検体



川辺の清掃作業

16

一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金

【代表者】中川 亜希子



ブナ林や湿原など手付かずの自然には法令などの保護の枠組みがありますが、水田や草原、雑木林といった伝統的な農林業によって維持されてきた自然(いわゆる里地・里山)にはそうした手立ては充実していません。しかし、里地・里山の環境に依存する生物は多く、メダカやタガメ、トキやコウノトリなど絶滅危惧種が増えています。このため、今後ますます増加する耕作放棄地や放棄林などを活用し、自然を再生・保全すると共に、環境教育の場としても活用する団体を設立しました。ミッションは、野生生物が生息可能な空間の拡大を通じて、生物多様性への貢献を図り、野生生物の本来の姿が身近に感じられる社会を実現に近づけることです。



ファミリープログラムの参加者

これまで活動している棚田(放棄水田)のほかに、地域の農家とコラボして営農している水田の生物調査をイベントとして開催しました。市街地に隣接する水田と異なり、多様な種が見られ絶滅危惧種も多数確認できました。このことから、水田生態系のすばらしさを普及していくこと決め、その重要性を説明したところ、地域の農業組織との共同開催が決定しました。

一方、自然再生においては、地盤が強固である事と、外来生物の新規侵入などの問題が確認されたことから、再生作業の長期化を見据え、リピーターを対象に企画運営ボランティアを募るなど、プロジェクトの一層の強化を図りたいと思います。



学びと実践のための谷まるごと棚田の自然再生プロジェクト

◆活動地域：奈良県奈良市 ◆助成期間(年)：1 2 3



当プロジェクトは、耕作放棄された谷あいの棚田を利用し、周辺里山を含む谷まるごとを生きものの楽園へと再生するものです。自然が再生していく工程・過程を教材化し、一般向けの環境アクティビティ(プログラム)として提供することにより、作業人数の確保と環境教育拡大の創出をはかれています。2021年度は棚田の自然再生に加え、活動範囲を地域の営農田へと拡げ、急激な耕作放棄が進まないよう、地元農家を講師に都市住民向けに稻作の重要性を体験するイベントを新たに実施しました。これにより、2021年度の当プロジェクトにおける参加者数は過去最高となり、翌年度における地域の農業団体とのコラボイベントも決まりました。

- 活動回数／21回
- 活動参加人数／267人
- 整備した面積／延べ2,900m²

▶ 現地の声

<講師をつとめられた地元農家さんより>

◎この自然環境をしっかりと後世にバトンタッチ出来るようにしたいと思います。中々後継者が育ちにくいのは確かですが頑張ります。

<水田での調査イベントの参加者より>

◎大柳生地区的生物が豊かな理由が梅雨にあり、実際に梅雨時期に生き物観察をさせていただく貴重な体験ができ、とても楽しく学ぶことができました。子ども達の笑顔、農家の方々の温かさやご苦労にも触れさせていただきました。



水辺の生物調査



親子参加による棚田の整備



自然保護区プロジェクトの教材

17

NPO法人 森のライフスタイル研究所

【代表者】竹垣 英信



森林と触れ合った体験が乏しく、森づくりへの理解が深まっていない多くの人々に対して、楽しさを取り入れた多彩な活動を展開するために、2003年に設立しました。ごく普通の人が当たり前のように森づくりに关心を持てる社会を創造すると共に、森林の育成・保全に寄与することを目指して活動を行っています。



樹上の倒木整備作業

本プロジェクトは、40年間管理が行き届かず暗い林内になってしまった八王子市上川の里山に手を加え、明るい森へと変えていく環境活動です。また、当団体が耕作を取り戻した田んぼの維持活動を行うことで、森と水とのつながりを理解できる人材の育成も担っています。今年度は新型コロナウイルスの影響で、交通移動が少ない市内住民を中心とした小規模な里山整備活動となりましたが、植生の把握のため、グリーンセイバー（植物や生態系に関する知識を体系的に身につけた人材）資格を有した専門家による月1回程度の調査を始めました。森と水のつながりに科学的な視点を取り入れながら管理方法を確立していくことを考えています。



八王子市上川の里 森と水のつながり実感プロジェクト



◆活動地域：東京都八王子市 上川の里特別緑地保全地域 ◆助成期間(年)：①②③



新型コロナウイルスによって人の移動が制限されることや、密になることへの恐怖感があり、募集型でのボランティア活動ができず、悔しい想いをしています。その一方であまり目を向けてこなかった市内住民とのコミュニケーションづくりのきっかけができました。その縁から、八王子市内にある生産緑地の活用方法について打診があり、現在プロジェクト組成に取組んでいます。

里山部分については、まだ手入れができるていないエリアに進み、これまでと同様の伐採活動を行なうながら伐った木の活用方法を構築していきたいと思います。

田んぼ部分については水の確保をしながら、まだ耕作放棄されているエリアも、開墾していくことを考えています。

- 活動回数／4回
- 活動参加人数／59人
- 整備した面積／6,000m²

▶ 現地の声

<活動に参加した方>

◎新型コロナウイルスの影響で、地元回帰を意識するようになりました。本活動を知り僅かながらの人手を出すことができました。コロナ禍なのですが、できる範囲でお手伝いしたいです。

◎植生を意識しながら保全活動に取り組むことで、多くの里山ファンを呼び込んでいけるといいですね。



整備された林道



手つかずの状態に近い山の手入れ作業



補修された丸木橋

18

NPO法人 新潟水辺の会

【代表者】相楽 治



当会は、1987年にドキュメンタリー「柳川堀割物語」の上映会＆シンポジウムの開催を機に、身近にある川を学習する「水辺を考える会」として発足しました。その後、通船川の再生に取組み、2002年にNPO法人となりました。信濃川を鮭の遡上・降下する大河に復活させる活動など、幅を広げ、新潟の水辺環境の改善を行ってきました。現在は、「潟版」のSDGsとして、水良し、住んで良し、来て良し、商い良し、子ども良しの「五方良し」を掲げ、環境資源循環の空芯菜湖上栽培や子供たちの潟ウォーク、エジソンメガホン実験などを行い、人力・帆力の浮島航行や舟のシェア利用プラットフォームの実現をめざし活動しています。



地元小学生に対する潟体验学習会

この3年の取組みで、小学生や中学生の総合学習や教育学習で、潟の濁りの水質改善の見方、循環すれば「もったいない栄養分」が資源になる見方などアクティブラーニングによる「子供たちの気づき」で、潟の「教育的価値」が定着しつつあります。今後は、潟の利用を「環境教育事業」と潟産物や潟利用ガイドサービスによる「環境循環経済事業」とを一体に展開するため、「潟守潟Jrリーダー育成」による若い担い手づくりや設備資源をシェアする「プラットフォーム」の組織づくりを若者たちと取組みます。



鳥屋野潟の再生から持続発展・空芯菜筏プロジェクト



◆活動地域：新潟県新潟市 鳥屋野潟および新潟市内 ◆助成期間(年)：①②③



2021年はこれまでの成果を3年目で総括する活動として取組みました。学校児童の来場に対応できる学習支援のテラスなども拡充し、環境の進化を図ることができました。直売所出荷や料理教室、タイ料理店レストランを始めとするオーナーの収穫参加、学校給食を始めた学校の総合学習会支援、オンラインを含む小中学校での環境食育講演、TOTO支社の皆様の収穫と野外学習交流会など充実した年となりました。コロナ禍で子ども食堂への寄贈はできませんでしたが直売所のフードバンク寄贈活動に賛同し、空芯菜を寄贈しました。

空芯菜プロジェクトが「教育的価値」アクティブラーニングモデルと、空芯菜の栽培～食材～飼料～加工による潟中の栄養塩の潟外搬出＝地域循環型環境経済サイクルモデルが見えてきました。

- 活動回数／55回 ■活動参加人数／1,080人
- 植樹／1,200本(空芯菜) ■整備した面積／500m²
- その他の実績／小学校の総合学習で鳥屋野潟イカダでの空芯菜栽培や水質を学習 学校給食や地元の料理店などに空芯菜を納品



竹イカダづくりの様子



空芯菜のイカゲ設置作業活動



空芯菜の新メニュー開発

19

一般社団法人 海っ子の森

【代表者】 山下 達巳



海の森づくりをテーマに、2005年から活動を始め15年以上経過しました。当初の目的であった磯焼け対策であるアラメ・カジメの稚苗の植林に加え、海岸・海中清掃・ごみの持ち帰り活動などを実施し、海の環境負荷を減らす活動を行ってきました。その後、多方面からの参加者や技術者との交流の中から、海洋ゴミ（海岸の海ゴミ分別と家庭内食品廃棄ゴミ）の削減と農業資源への活用取り組みを行うようになり、ワイン用葡萄畠や安納芋畠などへの貝殻、海藻肥料を施肥しました。海岸漂着物には海藻類などの海の資源とプラスチックゴミなどがあり、分別による資源化を重要課題として新たな視点で活動に取り組んでいます。



スタッフ、参加者のみなさん

私たちは毎年定期的に海岸清掃を行う中で、漂着海藻が多くあることによって海の豊かさを実感しました。その一方で、今まで毎年海岸清掃をしましたとPRして、海の汚さを伝える団体になっていました。世界的な海ゴミ問題に目を奪われ、海の豊かさを伝えきれていなかったのです。海ゴミ問題も大切ですが、海の資源を活用することから、美しい豊かな海を伝え直したいと思うようになりました。また、農業法人の方々とのつながりができ、海洋資源の活用のアイデアが現実化しつつあります。



漂着ゴミ分別による農業資源への活用と廃棄ゴミの削減



◆活動地域：三重県北牟婁郡紀北町、尾鷲市、伊勢市 ◆助成期間(年)：1 2 3



海の豊かさを知っていただくための活動として、海の未利用資源である漂着海藻や食卓から出る魚の骨や貝殻などの再資源化を始めました。最初の試みとして、2020年度は野菜を育てる肥料として乾燥・粉碎して使いました。農家との交流で熱を加えることで短期間で良い肥料ができる学びました。このことから2021年度は太陽熱エネルギーを使った堆肥製造マシンの試みがうまくいきました。

2022年度はこの装置を使って、子供達や市民の方と海の未利用資源から堆肥を作る仕組みを学び、海の豊かさを再認識し、海と畑をつなぐ持続可能な社会に向けた仕組みの1つとして、この新たなシステムを提案していきます。

- 活動回数／12回
- 活動参加人数／84人
- ゴミ回収量／110kg
- その他の実績／漂着海藻や貝殻などで製作した肥料を農家や参加者へ配布

► 現地の声

<地元の農家の方>

◎有機肥料、特に天然物である海洋資源から作った肥料を使ってみたい。

<活動に参加した方>

◎家庭から生じる食品残渣(魚の骨や野菜くずなど)は現在多くの燃料を使って焼却されており、このことに後ろめたさを感じていたが、太陽エネルギーを使ってこれらを数日で堆肥化できる設備は興味深い。



助成団体の活動通信

20

公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会

【代表者】 石井 実



当協会は、大阪府内に残された貴重な湿地や動植物を育む自然環境を保全するとともに、身近な街の緑化を市民の参加や協同による活動を主体として推進するために、大阪府により1989年に設立されました。「みどりの未来をわたしたちの手で」をキャッチフレーズにみどり豊かで快適な環境づくりに取り組んでいます。

生物多様性の保全が世界の主流となる中で、里山をはじめ湿地環境でも活動を展開しています。また、近年は「森林ESD」(持続可能な社会づくりに向け、森林・里山を活用する人材育成システム)にも注力しています。



サギソウ観察会の様子

長年の目標にしていたハッショウトンボが、前年度に統いて確認されたことにより、保全活動の成果が感じられました。希少植物の個体数も年々増えており、活動されているボランティアの方々もやりがいを感じていると思います。今後は地黄湿地の生態系を維持し生物多様性豊かな場所としての存在価値をさらに高めて活用することを目的に、引き続き「①市民参加による湿地の維持が継続実施される仕組みづくり」「②専門家と連携し、希少種の保護や外来種除去の市民参加の活動」「③湿地の利用価値を高める」を実行し、今後も活動を発展させていきます。



地黄湿地を拠点とした、市民参加による湿地生態系の保全



◆活動地域：大阪府豊能郡能勢町 地黄区 ◆助成期間(年)：1 2 3



今年度も新型コロナウイルスの影響を受けて活動の縮小が余儀なくされました。しかし、しばらく見られなかったハッショウトンボが前年度に引き続いて確認され、トキソウやサギソウなどの良好な生育が確認され、過年度からの保全活動の成果が見られました。また、地元高校生の環境学習で保全活動の紹介や湿地その物やそこに棲む生き物の観察を現地で行いました。あわせて学術機関と連携した科学的な生物調査を行い、保全活動に反映させながら生物多様性豊かな湿地を保全しました。

- 活動回数／31回
- 活動参加人数／282人
- 整備した面積／10,000m²

► 現地の声

<活動に参加した方>

◎自分たちが草刈りなどの活動をした結果、湿地にどのような変化がでているかを知りたい。

◎高校生とのコラボが良かった。次世代につなげるために良いと思います。



サギソウ



ハッショウトンボ



地元の高校生による解説

これまでの助成先団体一覧(国内)

	No.	活動地	団体名
北海道	1	北海道	ばんぱんばんぱくいん
	2	北海道	NPO法人 山のない北村の輝き
	3	北海道	NPO法人 森をたてようネットワーク
東北	4	青森	小川原湖自然楽校
	5	青森	NPO法人 白神山地を守る会
	6	岩手	NPO法人 わが流域環境ネット
	7	岩手	NPO法人 紫波みらい研究所(代表団体)
	8	宮城	梅田川せせらぎ線道を考える会
	9	宮城	NPO法人 川崎町の資源をいかす会
	10	宮城	NPO法人 杜の都仙台ナショナルトラスト
	11	宮城	カワラバン
	12	宮城	宮城県淡水魚類研究会
	13	宮城	NPO法人 リアスの森応援隊
関東	14	山形	鮭川村自然保護委員会
	15	山形	庄内自然博物園構想推進協議会
	16	茨城	NPO法人 Water Doors
	17	茨城	御前山ダム環境センター
	18	茨城	NPO環~WA
	19	栃木	わたらせ未来基金
	20	栃木	NPO法人 オオタ力保護基金
	21	群馬	NPO法人 緑の家学校
	22	群馬	さなざわ里山だんだんの会
	23	埼玉	NPO法人 比企自然学校
近畿	24	千葉	NPO法人 ふるさと生きがいづくり
	25	千葉	NPO法人 印旛沼流域環境研究会
	26	千葉	NPO法人 印旛野菜いかだの会
	27	千葉	八千代市はたるの里づくり実行委員会
	28	千葉	NPO法人 しおり環境塾
	29	千葉	ほたる野を守るNORAの会
	30	千葉	NPO法人 森のライフスタイル研究所
	31	東京	NPO法人 森のライフスタイル研究所
	32	東京	ぜんかんれん
	33	東京	白子川源流・水辺の会
中部	34	東京	DEXTE-K
	35	東京	NPO法人 荒川クリーンエイド・フォーラム
	36	東京	NPO法人 おちかわの里
	37	神奈川	浜っ子トラストチーム
	38	神奈川	NPO法人 ヨコハマ倉造空間
	39	神奈川	ほのぼのビーチ茅ヶ崎
	40	神奈川	NPO法人 おさかなボストの会
	41	神奈川	NPO法人 海の森・山の森事務局
	42	神奈川	一般社団法人 サーフライダーファウンデーションジャパン
	43	神奈川	NPO法人 小綱代野外活動調整会議
四国	44	神奈川	NPO法人 むらしつながる森里川海
	45	新潟	NPO法人 ねっとわーく福島潟
	46	新潟	高根フロンティアクラブ
	47	新潟	NPO法人 新潟水辺の会
	48	富山	福光ふるさとの森を再生する会
	49	富山	金山里山の会

これまでの助成先団体一覧(海外)

	No.	活動地	団体名
四国	50	石川	金沢エコライフ事業実行委員会
	51	福井	アマモサポーターズ
	52	山梨	NPO法人 えがおつなげて
九州	53	山梨	NPO法人 ゼロファクトリー
	54	長野	ステップアップゼミ
	55	岐阜	NPO法人 MY
	56	岐阜	大富山を愛する会
	57	静岡	NPO法人 浜松NPOネットワークセンター
	58	静岡	NPO法人 はるの山の楽校
	59	愛知	ネイチャーグラブ東海
	60	愛知	虹のとびら
	61	愛知	一般社団法人 ClearWaterProject
	62	三重	一般社団法人 海っ子の森
海外	63	滋賀	NPO法人 旅するおさかなサポーター
	64	滋賀	NPO法人 夢工房
	65	滋賀	清水川湧遊会
	66	滋賀	たかしま有機農法研究会
	67	滋賀	神山区いい顔づくり委員会
	68	滋賀	NPO法人 家棟川流域観光船
	69	京都	水源の里連絡協議会
	70	京都	NPO法人 プロジェクト保津川
	71	京都	川と海つながり共創プロジェクト
	72	京都	ほたる祭改善プロジェクト委員会
東洋	73	大阪	NPO法人 花だんごネットワーク
	74	大阪	NPO法人 ふくてく
	75	大阪	NPO法人 環境教育技術振興会
	76	大阪	公益財団法人 大阪みどりのトラスト協会
	77	兵庫	「峠池」を考える会
	78	兵庫	武庫川の治水を考える連絡協議会
	79	兵庫	松蔭高等学校 Blue Earth Project
	80	兵庫	高砂海浜公園海辺の保全集いの会
	81	兵庫	NPO法人 アンビシャス コーポレーション
	82	奈良	景観ボランティア明日香
オセアニア	83	奈良	一般社団法人 自然再生と自然保護区のための基金
	84	和歌山	NPO法人 ゴミンゴ・ゴミ拾いネットワーク
	85	鳥取	山王さん周辺活性化協議会
	86	島根	NPO法人 飯梨川再生ネット
	87	島根	千鳥のお堀を学ぶ会
	88	広島	酒屋地区自治会連合会
	89	広島	大羽谷川流域の環境を考える会
	90	広島	NPO法人 もりメイト俱楽部Hiroshima
	91	広島	京橋川かいわい あしがるクラブ
	92	徳島	NPO法人 川塾
オセアニア	93	徳島	NPO法人 環境とくしまネット
	94	愛媛	宮前川クリーンネット
	95	愛媛	エコ・ライフ夢幻村
	96	愛媛	久保・肱川源流を想う会
	97	高知	(社)西土佐環境・文化センター 四万十楽舎
	98	高知	こうち森林救援隊

これまでの助成状況

回	期間	金額	団体数
第1回	2005年10月～2006年9月	1,090万円	12
第2回	2006年10月～2007年9月	1,560万円	12
第3回	2007年10月～2010年9月	8,051万円	29
第4回	2008年10月～2009年9月	1,200万円	16
第5回	2009年10月～2010年9月	1,102万円	18
第6回	2010年10月～2011年9月	751万円	10
第7回	2012年4月～2013年3月	980万円	16
第8回	2013年4月～2014年3月	1,007万円	20

*第3回、第12回は、TOTO創立周年記念事業として助成金を増額。

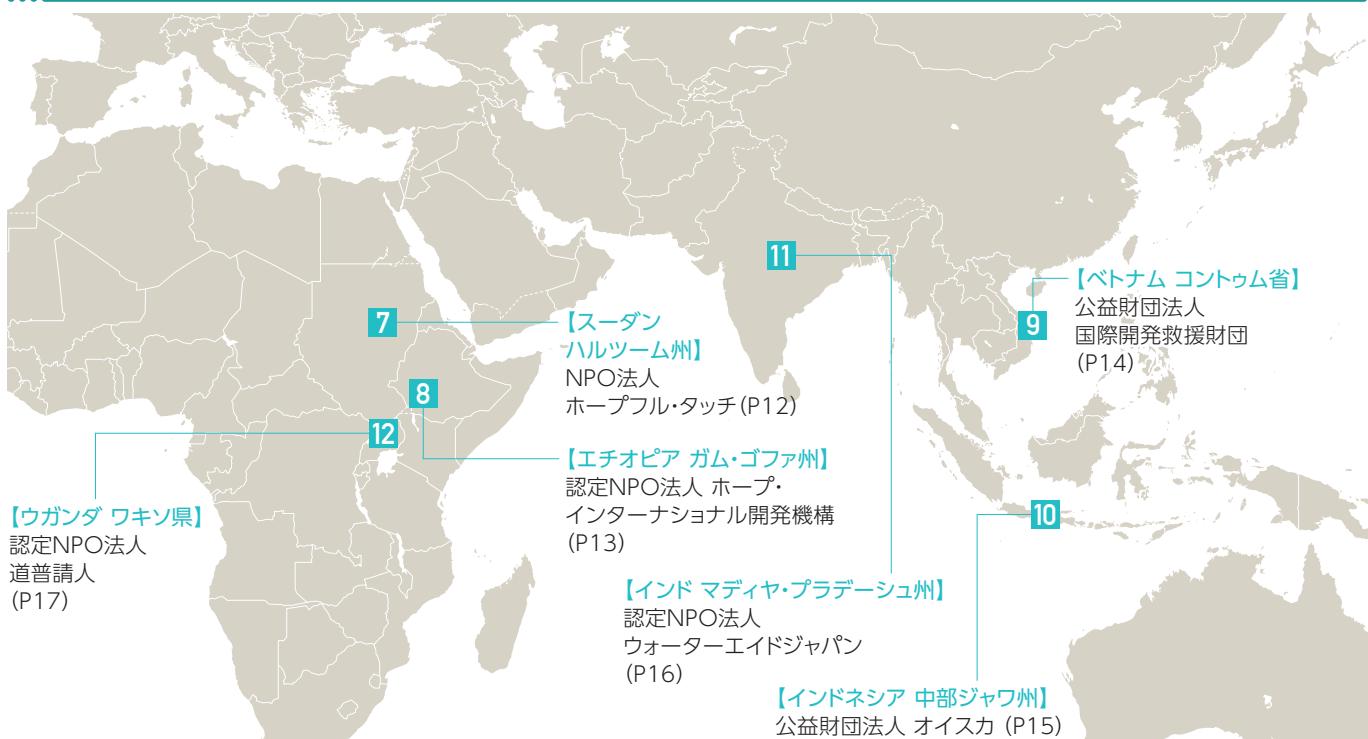
回	期間	金額	団体数
第9回	2014年4月～2015年3月	1,300万円	25
第10回	2015年4月～2016年3月	1,430万円	22
第11回	2016年4月～2017年3月	1,556万円	24
第12回	2017年4月～2020年3月	9,531万円	35
第13回	2018年4月～2021年3月	1,752万円	10
第14回	2019年4月～2022年3月	2,465万円	10
第15回	2020年4月～2023年3月	2,656万円	10
第16回	2021年4月～2024年3月	2,747万円	12

累計 3億9,178万円 281団体

2021年度 助成先団体活動地域(国内)



2021年度 助成先団体活動地域(海外)



あしたを、ちがう「まいにち」に。

TOTO

TOTO株式会社

(TOTO水環境基金事務局)

<https://jp.toto.com/company/csr/mizukikin/>



(2022年9月発行)